

Lenovo

Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack

リリース・ノート



バージョン 7.8.0

注

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、19 ページの 付録 A「注記」に記載されている情報をお読みください。

第 17 版 (2019 年 12 月)

© Copyright Lenovo 2014, 2019.

Portions © Copyright IBM Corporation 1999,2014

制限付き権利に関する通知: データまたはソフトウェアが米国一般調達局 (GSA: General Services Administration) 契約に準じて提供される場合、使用、複製、または開示は契約番号 GS-35F-05925 に規定された制限に従うものとします。

目次

本書について	iii	BladeCenter とそのモジュールの検出に関する問題	12
規則および用語	iii	BladeCenter の正常性監視に関する問題	13
Web リソース	iii	BMC の検出に関連する問題	14
第 1 章 . バージョン 7.8.0 の新機能	1	Lenovo XClarity Administrator の登録に関連する問題	15
第 2 章 . 既知の制限	3	Operations Manager のヒント	15
インストール、アンインストール、およびアップグレードに関する問題	3	付録 A. 注記	19
サーバーとそのハードウェア・コンポーネントの検出に関する問題	6	商標	20
サーバー・ハードウェアの正常性監視に関する問題	8	重要事項	20

本書について

これらのリリース・ノートには、Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack に関する最新情報が記載されています。

規則および用語

太字の「注」または「重要」で始まっているパラグラフは、重要な情報を強調する固有の意味を持つ注意書きです。

注：これらの特記事項は重要なヒント、ガイダンス、またはアドバイスを提供します。

重要：これらの特記事項は、不都合なまたは困難な状態を避けるために役立つ情報またはアドバイスを提供します。

本書で使用されている用語、頭字語、および省略語のいくつかについて、下の表で説明します。

用語、頭字語、または略語	定義
BMC	ベースボード管理コントローラー。サービス・プロセッサ機能とビデオ・コントローラーを1つのチップに統合したサービス・プロセッサです。
CMM	Chassis Management Module。Flex System シャーシを管理します。
AMM	Advanced Management Module。BladeCenter® シャーシを管理します。
SNMP	シンプル・ネットワーク管理プロトコル。
(Lenovo) XClarity® Integrator (LXCI)	IT 管理者が System x と Microsoft System Center の管理機能を統合して使用できるツール・スイートです。
(Lenovo) XClarity Integrator サービス	Lenovo XClarity Integrator のバックエンド・コンポーネント。Lenovo XClarity Integrator が Lenovo サーバーにアクセスして管理するための機能を提供します。
(Lenovo) XClarity Administrator (LXCA)	Lenovo サーバー・システムおよびソリューションのインフラストラクチャー管理を単純化し、応答性と可用性を高めることを目的としてリソースを一元的に管理するソリューションです。
Operations Manager	Microsoft System Center Operations Manager。
管理対象サーバーまたは管理対象ノード	Operations Manager によって管理される物理マシンです。

Web リソース

以下の Web サイトは、BladeCenter シャーシ、Flex System シャーシ、ThinkServer® サーバー、ThinkSystem® サーバー、ThinkAgile HX シリーズサーバー、System x サーバー、およびシステム管理ツールの理解、使用、トラブルシューティングのためのリソースを提供しています。

Lenovo サーバー対応 Microsoft Systems Management Solutions の Lenovo Web サイト

この Web サイトでは、Microsoft System Center 管理ソリューション対応 XClarity Integrator 製品の最新のダウンロードを検索します。

- [Microsoft System Center 対応 Lenovo XClarity Integrator Web サイト](#)

Lenovo XClarity ソリューションを使用したシステム管理

この Web サイトでは、Lenovo XClarity ソリューションの概要について説明します。このソリューションは、System x および Flex System ハードウェアに統合され、システム管理機能を提供します。

- [Lenovo XClarity ソリューションを使用したシステム管理についての Web サイト](#)

Lenovo XClarity フォーラムおよびアイディエーション

以下の Web サイトでは、すべての Lenovo XClarity 製品のフォーラムおよびアイディエーションを提供します。

- [Lenovo XClarity Forum Web サイト](#)
- [Lenovo XClarity アイディエーション Web サイト](#)

Lenovo テクニカル・サポート・ポータル

この Web サイトは、ハードウェアおよびソフトウェアのサポートを見つけるのに役立ちます。

- [Lenovo サポート・ポータル Web サイト](#)

Lenovo ServerProven

この Web サイトでは、Lenovo ThinkSystem サーバー、System x サーバー、BladeCenter サーバー、および Flex System サーバーとのハードウェア互換性に関する情報を取得します。

- [Lenovo ServerProven 互換性 Web サイト](#)

Microsoft System Center Operations Manager Web サイト

この Web サイトは、Microsoft System Center Operations Manager の概要を示します。

- [Microsoft System Center Operations Manager Web サイト](#)

第 1 章 バージョン 7.8.0 の新機能

このセクションでは、Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack v7.8.0 で新しく加わった機能の概要について説明しています。

新規のハードウェア・サポート

- **Lenovo ThinkSystem**
 - SR635 (7Y98、7Y99)
 - SR655 (7Y00、7Z01)
- **Lenovo ThinkAgile HX シリーズ**
 - HX7521 (7Z45)
 - HX7520 (7Z44)
 - HX7821 (7Z09)
 - HX7820 (7Z08)
 - HX1521/3521/5521/7521 (7Z05)
 - HX1321/2321/3321/7321 (7Z04)
 - HX3721/7721 (7Z03)
 - HX7821 (7Y96)
 - HX7820 (7Y95)
 - HX1521/3521/5521/7521 (7Y90)
 - HX1321/2321/3321/7321 (7Y89)
 - HX3721/7721 (7Y88)
 - HX1520/3520/5520/7520 (7X84)
 - HX1320/2320/3320 (7X83)
 - HX2720/3720 (7X82)
 - HX2710/3710 (8689)
 - HX1310/2310/3310 (8693)
 - HX3510/5510/7510 (8695)

新機能のサポート

- インストール・パッケージを最適化してパッケージ・サイズを縮小し、インストール速度を向上させます。
- Lenovo XClarity Integrator サービスのパフォーマンスを最適化し、ハードウェア要件を更新します。
- 大規模な環境でのパフォーマンスを向上させます。

セキュリティに関する修正

以下のセキュリティの問題が修正されました。

- CVE-2019-9511
- CVE-2019-9513
- CVE-2019-9516

第 2 章 既知の制限

インストール、アンインストール、およびアップグレードに関する問題

ここでは、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack のインストール、アンインストール、およびアップグレードに関連する問題について説明します。

- XClarity Integrator サービスにログインできない

プロキシ・サーバーを使用している場合は、次のステップを 1 つまたは複数実行します。

注：プロキシ・サーバーが使用されているかどうか判別するには、「Internet Options (インターネット・オプション)」→「Connections (接続)」→「LAN settings (LAN 設定)」をクリックし、「Proxy server (プロキシ・サーバー)」が有効になっているか確認します。

- プロキシにユーザー名およびパスワードが必要な場合は、Internet Explorer を使用して Web ページに移動します。ユーザー名とパスワードをダイアログに入力し、「Remember (保存する)」チェック・ボックスをチェックします。
- XClarity Integrator サービスが Lenovo XClarity Integrator アドインと同じホストにインストールされている場合は、「Internet Options (インターネット・オプション)」で「Bypass proxy server for local addresses (ローカル・アドレスにはプロキシ・サーバーを使用しない)」を選択します。
- プロキシは使用しません。

- XClarity Integrator サービスへの接続に失敗した

Lenovo XClarity Integrator サービスを手動で再起動したか、Lenovo XClarity Integrator を再インストールまたはアップグレードした場合、Lenovo XClarity Integrator が XClarity Integrator サービスを接続できなかったことを示す問題が発生することがあります。これは、古いサービスが正常に停止されていないことによる既知の問題です。

回避策: Lenovo XClarity Integrator に関連する Lenovo XClarity Integrator サービスと python プロセスを手動で停止し、Lenovo XClarity Integrator サービスをもう一度再起動します。

- UAC がオンになっている場合、インストール関連のアクティビティをコントロール・パネルまたは MSI ファイル経由で直接管理しようとするとう失敗する

Microsoft Windows 2008 以降のバージョンで、コントロール・パネルまたは MSI ファイル (Microsoft Windows インストーラー・パッケージ) を使用してインストール関連のアクティビティ (アンインストールなど) を直接管理しようとしても、ユーザー・アクセス制御 (UAC) がオンになっていると、そのプロセスは実行時に失敗します。

回避策: インストール関連のアクティビティを実行するには、コントロール・パネルで UAC をオフにしておくか、指定されているローカル管理者アカウントでこれらのアクティビティを実行します。

- デフォルト管理パックに保存されているオーバーライドが原因で、Hardware Management Pack を削除できない

Hardware Management Pack を Operations Manager から削除しようとする、以下のメッセージが表示されます。

Remove the Default Management Pack first before removing the Management Pack because of dependency. You cannot delete the Management Pack without removing the dependent management packs. (依存関係のため、管理パックを削除する前にデフォルト管理パックを削除してください。依存先の管理パックを削除せずに、管理パックを削除することはできません。)

このメッセージは、ルールまたは監視についてのオーバーライドが、デフォルト管理パックに少なくとも 1 つ保存されていることを示します。オーバーライドは、デフォルト管理パックまたは依存先管理パックのいずれかに保存されています。

回避策: これらのオーバーライドを後で使用する場合は、デフォルト管理パック (またはメッセージに示されている管理パック) 以外の管理パックにオーバーライドを保存します。オーバーライドを保存したら、Operations Manager による問題を発生させた管理パックを削除し、その後、その他の残りの管理パックを削除してください。Hardware Management Pack を Operations Manager にインポートするときに、以前に保存した管理パックをインポートして、オーバーライドを復元します。

- **Hardware Management Pack の削除中に、一部または多くの管理対象システムで「スクリプトまたは実行可能ファイルを実行できない」アラートが発生する**

エージェント・ベースの管理対象システムでは、さまざまなタイミングで Hardware Management Pack のスクリプトが Operations Manager によって起動されます。

Hardware Management Pack の削除中に、Hardware Management Pack に定義されているスクリプトが動作している場合、スクリプト障害が発生します。この障害によって、対応するアラートが Operations Manager に出されます。

回避策: この場合、アラートは無視してもかまいません。障害が発生しないようにするには、Hardware Management Pack を Operations Manager から削除する前に、管理サーバーを保守モードにしてください。

- **Windows Server 2008 で Hardware Management Pack を Operations Manager から削除すると、「a script is running...」(スクリプト実行中) というアラートが表示される場合がある**

Hardware Management Pack に定義されているスクリプトが動作している間に Hardware Management Pack を削除すると、スクリプトが実行中で、そのスクリプトが入っているファイルが削除されることを通知するメッセージが表示されます。

「Ignore (無視)」をクリックしてアンインストールを続行することができます。このスクリプトが動作しているサーバーに影響はありません。

回避策: Hardware Management Pack を Operations Manager から削除する前に、管理サーバーを、Operations Manager 保守モードにしてください。

- **Hardware Management Pack を削除した直後、Operations Manager コンソールにエラーが表示される**

Hardware Management Pack を Operations Manager から削除した直後、Operations Manager コンソールに一連のエラーが表示される場合があります。これは、GUI が、削除された Hardware Management Pack とビューを共有していることが原因です。

たとえば、「Invalid Column Name ... (無効な列名 ...)」、「Collection was modified (コレクションが変更された)」のようなエラーが表示される場合があります。

回避策: このエラーと、関連するエラーは無視してください。また、この状況では、列挙操作が行われない可能性があることに注意してください。

- **Hardware Management Pack がインポートされた後、ハンドル・カウントしきい値超過エラーが報告される**

Operations Manager 管理サーバーで、Hardware Management Pack がインポートされた後、「Handle count threshold exceeding. (ハンドル・カウントしきい値超過)」というアラートが表示されることがあります。

このエラーの詳細を表示するには、以下の手順を実行します。

1. 「Performance (パフォーマンス)」 → 「Windows local Application Health Rollup (Windows ローカル・アプリケーション正常性ロールアップ)」 → 「Performance (パフォーマンス)」 → 「Health Service Performance (正常性サービス・パフォーマンス)」 → 「Health Service (正常性サービス)」をクリックして、Operations Manager 正常性サービスを開きます。
2. 「Handle Count Threshold (ハンドルしきい値超過)」をクリックして、以下のメッセージを検索します。

Too many rules and monitors are loaded from all the management packs that this Health Service has been configured with. (この正常性サービスが構成されているすべての管理パックからロードされたルールとモニターが多すぎます。)

回避策: [「Microsoft サポート - マネージ・アプリケーションに多数の Microsoft .NET Framework 2.0 のスレッド・ハンドルとイベント・ハンドルが存在する Web サイト」](#) の修正を適用します。Microsoft Operations Manager Support Team Blog の記事 ([The System Center Operations Manager – OpsMgr 2007 blog](#)) も参照してください。

回避策: このエラーが発生するたびに、「Health Service (正常性サービス)」を再起動し、正常性状態を手動でリセットしてください。手動での「health state (正常性状態)」のリセットは、この問題における一時的な対処に過ぎません。これを行うと、Operations Manager のパフォーマンスと正常性監視の継続性に悪影響を及ぼす可能性があります。

- **新しくインストールされた Hardware Management Pack の外部技術情報にアクセスするには、Operations Manager コンソールを再起動する必要がある**

Operations Manager コンソールを開いたまま Hardware Management Pack をインストールしている場合、または Hardware Management Pack のインストール・パスを変更した場合、Operations Manager コンソールを再起動するまで、ハードウェア技術情報へのリンクは使用できません。

これらのリンクは、Hardware Management Pack に定義されているモニターの技術情報内にあり、Operations Manager 状態ビューの「Actions (操作)」ペインにタスクとして表示されます。

回避策: リンクがハードウェア技術情報の新しいセットアップ・ロケーションを指すように、Operations Manager コンソールを閉じてから開き直してください。

- **リモート・ブレードのオン/オフおよびシャットダウン・タスクのためのディレクトリー・パスを更新するには、Operations Manager コンソールを再起動する必要がある**

Hardware Management Pack のインストール中に Operations Manager コンソールが開いたままになっている場合、Operations Manager コンソール環境で、リモート・ブレードのオン/オフおよび OS のシャットダウン・タスクにおけるプログラム・ディレクトリー・パス情報が失われます。

リモート・ブレードの電源オン/オフおよび OS のシャットダウン・コンソール・タスクが要求されたときに、%IBM_DIR_VBS% がプログラム・ディレクトリー・パスにあると、次のエラー・メッセージが表示されます。

Input Error: Cannot find script file (入力エラー: スクリプト・ファイルが見つかりません)

回避策: 新しいプログラム・ディレクトリー・パス %IBM_DIR_VBS% が Operations Manager コンソール環境に正しく定義されるように、Operations Manager コンソールを閉じてから開き直してください。

- **アンインストールを確認するダイアログ・ボックスが処理バーによってブロックされる**

システムのコントロール・パネルを使用して製品をアンインストールする場合、アンインストール処理の終了時に確認メッセージが表示されます。ただし、インストール・プログラムの処理バーによって確認メッセージがブロックされ、アンインストールを確認できません。

回避策: 次の2つの回避策が使用可能です。

- 下にあるアンインストール確認ウィンドウをクリックしてアクティブにし、次に「OK」をクリックしてアンインストールを完了します。
- 「Start (スタート)」メニューのアンインストール・ショートカット・オプションを使用して、製品をアンインストールします。この方法を使用すると、確認メッセージはブロックされません。

- **v6.2.0 から v6.3.0 にアップグレードする際、管理パックのアップグレードに失敗することがある**

Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack をアップグレードする際、最後のステップとして SCOM で管理パックをアップグレードします。バージョン 6.2.0 からアップグレードすると、System Center Operations Manager の問題によりこのステップが失敗する可能性があります。

回避策: アップグレードが完了したら、SCOM ですべての Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack を手動で削除してください。その後、C:\Program Files\Lenovo\Lenovo Hardware Management Pack\Management Packs にある Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack をインポートします。

- **v6.3.0 以降のバージョンから v7.3.0 へのアップグレード時に管理パック「Integrated Management Module 対応 Lenovo Hardware Management Pack」のアップグレードが失敗する**

Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack をアップグレードする場合、最後の手順は SCOM の管理パックをアップグレードすることです。v6.3.0 以降のバージョンから v7.3.0 へのアップグレード時に管理パック「Integrated Management Module 対応 Lenovo Hardware Management Pack」のアップグレードが失敗します。

回避策: アップグレードが完了したら、SCOM で Integrated Management Module 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack を手動で削除してください。その後、C:\Program Files\Lenovo\Lenovo Hardware Management Pack\Management Packs\Lenovo.HardwareMgmtPack.IMM2.v2.mp にある Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack をインポートします。

サーバーとそのハードウェア・コンポーネントの検出に関する問題

ここでは、サーバーまたはそのハードウェア・コンポーネントの検出に関連する問題について説明します。

- **管理対象システムが Operations Manager に追加された後、すべてのハードウェア・コンポーネントが Operations Manager 状態ビューに表示されるまで数分かかる**

管理対象システムが Operations Manager に追加された後、そのシステムが Operations Manager コンソールに表示されるまで3分以上かかることがあります。また、ハードウェア・コンポーネントおよび正常性状態のすべてが完全に Operations Manager に取り込まれるまで、最大で6時間かかることもあります。

ハードウェア正常性監視のための管理対象システム上での CPU 所要量を制限する目的で、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack では、サーバー内のハードウェア・コンポーネントの段階的な検出が実装されています。新しく追加されたシステムが初期検出を完了するまで、長い時間がかかります。

回避策:

- 管理下にあるラボ環境では、(Operations Manager 作成コンソールで) 検出間隔をより短い間隔にオーバーライドして、処理を高速化できます。管理対象システムのプロセッサへの過負荷を避けるためには、このようなオーバーライドは慎重に行ってください。オーバーライドについては、Operations Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。
- また、Operations Manager コンソールを定期的に手動で更新して、コンソールに最新データを表示することもできます。

- **Director Agent 6.1.x 以降のバージョンにおいて、RSA-II があっても BMC がない古いシステムでは、RSA-II デーモンがインストールされ、動作していても、Director Agent の互換性に関するクリティカル・アラートが出される**

Director Agent 6.1.x 以降のバージョンでは、RSA-II があっても BMC がないシステムはサポートしていません。RSA デーモンがインストールされ、問題なく動作していても、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack は、この状態のシステムに対して意図的にアラートを出します。

この状態にあるシステムのハードウェアの正常性は、正しく監視されません。

回避策: RSA-II のみを搭載し、BMC を搭載していないシステムでは、Director Core Services 5.20.31 を使用してください。

- **特定のクラスの System x システムのハードウェア・コンポーネントが、Microsoft IPMI ドライバーで検出されない**

Microsoft Intelligent Platform Management Interface (IPMI) ドライバーは、ベースボード管理コントローラー (BMC) との通信を行うため、システム BIOS が指定の ACPI 名前空間に BMC を公開することを必要とします。

Microsoft IPMI ドライバーが稼働していても、BMC を指定の ACPI 名前空間に公開する BIOS レベルがないシステムでは、必要な BIOS アップデートを指示するクリティカル・アラートが出されます。

このカテゴリにある最新の System x サーバーのリストについては、<http://www.ibm.com/systems/support/supportsite.wss/docdisplay?brandind=5000008&Indocid=MIGR-5075267> を参照してください。

回避策: このようなシステムでは、Microsoft IPMI ドライバーを使用しないでください。代わりに、OSA IPMI ドライバーを使用してください。

注: OSA IPMI ドライバーは Windows Server 2003 以前のバージョンでサポートされていますが、Windows 2008 以降のバージョンではサポートされていません。適切な IPMI スタックがなければ、システムのハードウェアの正常性を監視することはできません。

- **ブレード・サーバーで電源機構、ファン、温度センサー、または電圧センサーが検出されない**

BladeCenter において、電源機構、冷却ファン、温度センサー、および電圧センサーは、すべてシャーシの共有コンポーネントです。ブレード・サーバー自体には、そのサーバーの外側の情報はありません。そのため、ブレード・サーバーに対して検出される電源機構、ファン、温度センサー、または電圧センサーのインスタンスはありません。

Hardware Management Pack に組み込まれている BladeCenter 管理パックで BladeCenter を監視し、ブレード・サーバーの *M/T-S/N* 値を使用して対応する BladeCenter を見つけ、BladeCenter の共有コンポーネントの正常性状態を調べてください。

- **Director Core Services 5.20.31 が入っている xSeries 335 システムで、電源機構が検出されない**

Director Core Services 5.20.31 が入っている xSeries 335 システムでは、パワー・サプライ・インスタンスが検出されません。

回避策: 現時点では回避策はありません。

- **Director Platform Agent 6.2.1 以降のバージョンが入っている IBMSystem x 3755 M3 システムで、電源機構が検出されない**

Director Platform Agent 6.2.1 以降のバージョンが入っている IBM System x 3755 M3 システムでは、パワー・サプライ・インスタンスが検出されません。

回避策: 現時点では回避策はありません。

- **一部の RAID コントローラー名が、読むことができるテキストではなく、シリアル番号で表示される場合がある**

IBM System Storage のインスタンス名 (ServeRAID-MR、MegaRAID、ServeRAID-BR、または Integrated RAID) は、シリアル番号で表示されることがあります。この場合、インスタンス名は、*LSI MegaRAID SAS Adapter* などの読むことができるテキストではなく、たとえば、*IBM.500605B000A8F214* のように、以下のビューに表示されます。

- インスタンス詳細
- 正常性エクスペローラー
- アラート・ソース

回避策: 現時点では回避策はありません。

- **古い管理コントローラー (サービス・プロセッサ) が検出されない**

Advanced Systems Management (ASM) PCI Adapter、ASM プロセッサ (ASMP)、Integrated Systems Management Processor (ISMP) といった古いサービス・プロセッサは、Hardware Management Pack では検出されません。ただし、このような古いサービス・プロセッサが管理しているハードウェア・コンポーネントは、それらの構成をサポートする Director Agent のバージョン (5.20.31 など) で検出することができます。

回避策: IT インフラストラクチャーのハードウェア・ヘルス全体をカバーするには、ベースボード管理コントローラー (BMC) サービス・プロセッサ、Remote Supervisor Adapter (RSA) II、または Integrated Management Module (IMM) が装備されている、より新しいシステムにアップグレードしてください。また、管理コントローラー用の最新のサポート対象ファームウェアをインストールしてください。

- **マルチノードおよびマルチインスタンス・マシンにおける電源キャッピング・サポートの制限**

Microsoft System Center Operations Manager の「Set Power Capping (電源キャッピングの設定)」タスクは、マルチノードおよびマルチインスタンスの電源システム (2 ノード・サーバーや MAX5 メモリー拡張装置が接続されているサーバーなど) をサポートしていません。マルチノード・システムでは、「Set Power Capping (電源キャッピングの設定)」タスクはシステム内の最初の (1 次) ノードにのみ影響し、関連する電源キャッピング・データは最初の (1 次) ノードにのみ適用されます。

MAX5 装置が接続されているマルチインスタンス・システムで「Set Power Capping (電源キャッピングの設定)」タスクを実行しようと試みても、一般的なファームウェア・ベースのエラー・コード 255 で、このタスクは失敗することがあります。MAX5 をサーバーから削除しておかないと、MAX5 が接続されているシステムに電源キャッピングを設定することはできません。

- **Power Maximum、Power Minimum、Power Cap などの電源キャッピング・プロパティがゼロ以外の値であるにもかかわらず、Power Capping Capable の値が false になっている**

サーバーが電源キャッピング対応であるかどうかを示すのは、**Power Capping Capable** プロパティだけです。一部のサーバーでは、そのサーバーで電源キャッピングがサポートされていない場合でも、電源キャッピング・プロパティ情報 (Power Maximum、Power Minimum、Power Cap など) がゼロ以外の値になっている場合があります。

このようなゼロ以外の値は、サーバーが電源キャッピング対応であることを示しているわけではありません。このサーバーに電源キャッピング機能が必要な場合は、「*Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack* インストールおよびユーザーズ・ガイド」の「IBM Power CIM Provider のインストール」および「トラブルシューティング」を参照してください。

- **Power Maximum、Power Minimum、または Power Cap の値がゼロである**

管理対象サーバー上の IBM Power CIM Provider の例外により、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack が正しい Power Capping ・プロパティを収集できないことがあります。

回避策: 電源キャッピング機能がサーバーに必要な場合は、以下の該当する手順を実行して、この問題を解決してください。

- 管理対象サーバーをリブートします。
- 管理対象サーバーのリブートが機能しない場合は、「*Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack* インストールおよびユーザーズ・ガイド」の「IBM Power CIM Provider のインストール」セクションおよび「トラブルシューティング」セクションを参照してください。

- 「Set Power Capping (電源キャッピングの設定)」タスクが SCOM コンソールで機能しない

PowerCapping オプションが有効になっていないことが原因で、「Set Power Capping (電源キャッピングの設定)」タスクが失敗することがあります。この場合、「ERROR - Failed to enable Power Capping (エラー - 電源キャッピングを有効にできません)」というメッセージが表示されます。

回避策: 以下の手順を実行してください。

1. PowerCapping の有効化を試みる際に、Pcap 値が Pmax と Pmin の間にあることを確認します。
2. 管理対象サーバーをリブートします。
3. 管理対象サーバーに IBM Power CIM Provider を再取り付けします。

上記の手順を完了しても PowerCapping タスクが機能しない場合は、「*Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack* インストールおよびユーザーズ・ガイド」の「トラブルシューティング」セクションを参照してください。

サーバー・ハードウェアの正常性監視に関する問題

ここでは、サーバーまたはそのハードウェア・コンポーネントの正常性監視に関連する問題について説明します。

BIOS/UEFI、BMC/IMM、および他のコンポーネント用のシステム・ファームウェアを最新のものに保っておくことが重要です。最新のシステム・ファームウェアについては、[Lenovo サポート・ポータル Web サイト](#)にアクセスしてください。

- **特定のメモリーおよびプロセッサのイベントについてアクティブ・アラートが重複して生成される**

Operations Manager で、特定のメモリーおよびプロセッサのイベントを受信した場合は、2つの重複したアクティブ・アラートが生成されます。これは、同じイベントが複数の監視で処理されるためです。

回避策: 現時点では回避策はありません。

- **一部のハードウェア・イベントが、一部のシステムで報告可能イベントになっていない**

正常性監視はハードウェアの能力、ファームウェア・サポート・レベル、および管理ソフトウェア・サポート・レベルによって異なります。たとえば、システムに物理的な電源機構が複数あっても、すべての電源機構が装着されていて管理可能というわけではありません。

ハードウェアの正常性イベントは、ハードウェア・プラットフォームに固有のものです。すべてのハードウェア・イベントが、すべてのハードウェア・プラットフォームに対する報告可能イベントとしてサポートされているわけではありません。

これは、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack の正常な動作です。

回避策: IT インフラストラクチャーにおけるハードウェア・ヘルス全体をカバーするには、ベースボード管理コントローラー (BMC) サービス・プロセッサ、Remote Supervisor Adapter (RSA) II、または Integrated Management Module (IMM) が装備されている、より新しいシステムにアップグレードしてください。また、管理コントローラー用の最新のサポート対象ファームウェアをインストールしてください。

- **管理システム上の一時ディスク・スペースを使い果たすと、正常性監視とイベント・アラートが動作しない**

Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack は、クライアント・サイド・スクリプトを使用してシステムの正常性を監視しているため、管理対象システムに一時作業ディスク・スペースが必要です。この一時作業ディスク・スペースは、Operations Manager の正常性サービスで管理されます。このディスク・スペースが使い尽くされると、Hardware Management Pack のスクリプトは動作できないため、正常性状態を正しく検出できず、Operations Manager に報告できません。

一時作業ディスク・スペースはデフォルトで、管理対象システム上の %TEMP% フォルダーからローカル・システム・アカウントに割り振られます。

注: ローカル・システム・アカウントは、Operations Manager の正常性サービスが動作するときのユーザー・アカウントです。管理対象システムのために予約しておくディスク・スペースの最小量として、推奨される大きさはありません。

この状態になると、Operations Manager 用の管理対象システム上の Windows イベント・ログに、以下の例のようなエントリが書き込まれます。

– 例 1

Event Type: Warning
Event Source: Health Service Modules
Event Category: None
Event ID: 10363
Date: 4/20/08
Time: 17:24:04
User: N/A
Computer: A-X3650-RAID
Description: Module was unable to enumerate the WMI data

Error: 0x80041032
Details: Call cancelled

これによって、1つ以上のワークフローが影響を受けました。

Workflow name: many
Instance name: many
Instance ID: many
Management group: scomgrp1

詳しくは、[Microsoft サポート-イベントとエラー・メッセージ・センター Web サイト](#)を参照してください。

– 例 2

Event Type: Error
Event Source: Health Service Modules
Event Category: None
Date: 04/20/08
Event ID: 9100
Time: 17:25:33
User: N/A
Computer: A-X3650-RAID
Description: An error occurred on line 105 when executing script

'MOM Backward Compatibility Service State Monitoring Script'
Source: Microsoft VBScript runtime error
Description: ActiveX component can't create object: 'GetObject'

これによって、1つ以上のワークフローが影響を受けました。

Workflow name: System.Mom.BackwardCompatibility.ServiceStateMonitoring
Instance name: a-x3650-raid.Lab54.local
Instance ID: {EE77E6E4-5DC5-F316-A0CA-502E4CBFCB97}
Management group: scomgrp1

詳しくは、[Microsoft サポート - イベントとエラー・メッセージ・センター Web サイト](#)を参照してください。

回避策: ローカル・システム・アカウント用のフリー・ディスク・スペースを、管理対象システム上の %TEMP% フォルダーで監視し、必要に応じてフリー・ディスク・スペースを大きくしてください。

- **一部のハードウェア・アラートで、正常性状態を手動でリセットする必要がある**

Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack は、大部分のハードウェア・アラートについて、ハードウェア・コンポーネントの正常性状態を自動的にリセットすることがあります。コンポーネントの正常性状態のリセットが適切であるかどうかを決定するための特定の情報がアラートに十分にある場合、リセットが発生します。

ただし、物理条件の情報が一般的すぎて、その物理条件が解決されているかどうか、または問題の正体が、IT 管理者による手動の確認応答が必要なセキュリティー上の懸念であるかどうかを、Hardware Management Pack が判別できない場合があります。

以下の例は、正常性状態を手動でリセットする必要がある、物理的なハードウェア障害のカテゴリを示しています。

- 物理システムに対する潜在的なセキュリティー・ブリーチ (抜け穴) の問題
- RAID またはディスク・ドライブに関連するハードウェア障害
- 固有の情報が十分ではないハードウェア障害 (一般プロセッサ・エラーなど)
- ハードウェア・プラットフォーム固有のハードウェア障害 (たとえば、プロセッサ・チップの外部の温度センサーで検出されない過熱プロセッサの状態)

回避策: 監視およびアラートごとに Hardware Management Pack の技術情報を参照し、アラート、または監視の状態に対して手動による正常性のリセットが必要かどうかを確認してください。

- **オフラインの管理対象システムがオンラインになって Operations Manager に再接続されるまで、そのシステムのアラートおよびイベントが Operations Manager コンソールに表示されない**

エージェント・ベースの管理対象システムのアラート、イベント、および状態変更は、Operations Manager サーバーと通信している管理対象システム上のローカル Microsoft 正常性サービスによってそれぞれ異なります。Operations Manager サーバーと管理対象システムとの間のネットワーク接続が切断されても、または何らかの理由で管理対象システムがオフラインになっても、Operations Manager サーバーに対してはアラートもイベントも発生しません。

ネットワーク接続が再開されると、管理対象システムでローカルに記録されたアラートおよびイベントが、Operations Manager サーバーに送られます。

管理対象システムと Operations Manager サーバーとの間の通信が完全に確立されると、以前に切断されていたシステムからの古いアラートおよびイベントが Operations Manager ビューに表示されることがあります。

回避策: 不要です。

- **管理対象システムから切断されている NIC が Windows で無効になっていても、オフライン・エラーと報告される**

NIC が Windows で (コントロール・パネルまたは他の方法で) 明示的に無効になっていても、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack は、物理的に切断されている NIC に関するエラーおよびアラートを報告します。

Hardware Management Pack は NIC の物理的な状況を、それらの NIC と Windows システムとの関係を考慮することなく監視します。

回避策: 現時点では回避策ありません。ただし、NIC オフライン・アラート監視を無効にして、これらのエラーを無視することができます。監視を無効にする方法については、Operations Manager オンライン・ヘルプを参照してください。

- 同じハードウェア・イベントに対して報告される重大度が、IBM Director Agent のバージョンによって異なることがある

いくつかのハードウェア・イベントが、Director Core Services 5.20.31 ではクリティカル・エラーとして報告されても、同じイベントが Director Platform Agent 6.2.1 以降のバージョンでは警告として報告されることがあります。

回避策: 現時点では回避策はありません。

- WinEvent ツールで生成されたすべてのイベントが 1 つのモニターで報告される

Director Agent 5.20.x に含まれる WinEvent (WinEvent.exe) の目的は、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack によって管理対象システムと Operations Manager の接続を検証することだけです。WinEvent には、実際に起こりうるハードウェア・イベントのシミュレートに必要な関連情報のすべてが完全にに取り込まれているわけではありません。そのため、WinEvent で生成されたイベントはすべて、Hardware Management Pack では 1 つのモニターで報告されます。

回避策: 現時点では回避策はありません。

- IBM Director Agent 5.10.x で WinEvent によって生成された未解決のエラーが、(手動で Operations Manager からクリアされた後でも) 定期的な正常性チェックアップ・モニターによって継続的に報告される

IBM Director Agent 5.10.x では、WinEvent ツール (WinEvent.exe) によって生成されるエラーは、対応するハードウェア・コンポーネントについて Director Agent で保守されている内部の正常性状態にも影響します。保存されている状態は、そのコンポーネントの定期的な正常性チェックアップ・モニターによって報告されるヘルス状態に影響します。結果として、Operations Manager でエラーが手動でクリアされた後でも、そのエラーが Director Agent レベルでクリアされるまで、定期的な正常性チェックアップ・モニターはそのエラーを報告し続けます。

IBM Director Agent 5.20.x 以降のバージョンでは、WinEvent によって生成されるイベントは、ハードウェア・コンポーネントについて Director Agent の内部で保守されている正常性状態に影響しません。

回避策: WinEvent.exe を使用して、重大度レベル 0 の対になるイベント (つまり、同じイベント ID) を生成し、ハードウェア・コンポーネントについて Director Agent で保守されているエラー状態をクリアしてください。または、IBM\director\cimom\data\health.dat ファイルと、管理対象システム上の IBM\director\cimom\data\health.dat*.evt ファイルすべてを削除し、システムを再起動して、WinEvent.exe で生成された未解決のすべてのエラーをクリアします。

- Remote Supervisor Adapter II でのログオンまたはログオフに関するイベントが Operations Manager で生成されない

Remote Supervisor Adapter II でのログオンまたはログオフするときのイベントが Operations Manager で生成されません。

回避策: Remote Supervisor Adapter II の最新のファームウェアをインストールしてください。

- RSA-II イベント・ログがキャパシティーしきい値を超えているか、フルになっている場合、Operations Manager でアラートが生成されない

RSA-II イベント・ログがキャパシティーしきい値を超えているか、フルになっている場合は、Operations Manager でアラートが生成されません。

回避策: Remote Supervisor Adapter II の最新のファームウェアをインストールしてください。

- OSA IPMI ドライバーをアンインストールしても、予期される「ソフトウェアが見つからない」エラーが表示されない

OSA IPMI ドライバーを管理対象システムからアンインストールすると、システム・リブートが行われるまで、「software missing (ソフトウェアが見つからない)」エラーではなく「software failed (ソフ

トウェア障害) 警告が出されます。OSA IPMI ドライバーが Windows プラグ・アンド・プレイに準拠していないことが、このエラーの原因です。リブートが行われるまで、このドライバーは削除されていても、まだ Windows システム・カーネルに存在します。

回避策: IBM サポート・サイトにリストされているシステムの場合は、OSA IPMI ドライバーの代わりに、Microsoft IPMI ドライバーを使用してください。Microsoft IPMI ドライバーは、Windows Server 2003 R2 ではオプションのハードウェア管理機能としてインストールできます。Windows Server 2008 以降のバージョンでは、自動的にインストールされます。

- Hardware Management Pack がインストールされていない Operations Manager 管理サーバーで、Hardware Management Pack についての外部ハードウェア技術情報が使用できない

Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack がインストールされていないサーバーで Operations Manager コンソールを使用している場合、ハードウェア・アラートに関する外部技術情報ページは使用できません。

これらの IBM 技術情報ページに Operations Manager コンソールからアクセスするには、Hardware Management Pack をローカルにインストールしておく必要があります。

回避策: ハードウェア技術情報にアクセスするには、Hardware Management Pack がインストールされている管理サーバーで Operations Manager 2007 コンソールを使用してください。

- System x 電源データ・グラフがマルチノード・サーバーで使用できない

このリリースの System x3850 X5、System X iDataPlex® dx360 M4 では、System x 電源データ・グラフでマルチノード・サーバーの電源情報を監視する機能はサポートされていません。

回避策: 従来の方法を使用して電源データを監視してください。

BladeCenter とそのモジュールの検出に関する問題

ここでは、BladeCenter とそのモジュールの検出に関連する問題について説明します。

BladeCenter アドバンスド・マネージメント・モジュール (AMM) のファームウェア・レベルが最新であることが重要です。AMM のファームウェア・レベルが古い場合は、一部のモジュールを検出できないことがあります。最新の AMM ファームウェアへのアップグレードについては、http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/director/v5r2/index.jsp?topic=/bofm_1.00/btp0_bofm_t_upgrading_firmware.html を参照してください。

BladeCenter を正しく検出し監視するには、BladeCenter SNMP 設定を正しく構成する必要もあります。

「*Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack ユーザーズ・ガイド*」の指示に従って BladeCenter の SNMP 設定をセットアップし、Operations Manager の検出ウィザードで BladeCenter をネットワーク・デバイスとして検出してください。

- BladeCenter AMM と、複数の NIC を持つ管理サーバーとの間に複数のネットワーク接続がある場合、その管理サーバーが、BladeCenter を確実に検出することができない

検出後に BladeCenter が Operations Manager コンソールにネットワーク・デバイスとして表示されず、検出対象の管理サーバーに、BladeCenter AMM に対する複数のネットワーク接続がある場合、その検出は、マルチ NIC バインディングでの SNMP の問題の影響を受けます。結果として、BladeCenter の検出が中断されることがあります。

回避策: 管理サーバー上の他の NIC をすべて無効にするか、他の方法で NIC を AMM から切断されたままにすることによって、管理サーバーと BladeCenter AMM との間のネットワーク接続を 1 つだけにしてください。

- BladeCenter の完全検出に時間がかかる

BladeCenter のネットワーク・デバイス検出の終了後、BladeCenter モジュール検出プロセスが始まるまで、最大で 2 時間かかる場合があります。また、すべての BladeCenter モジュール検出プロセスが終了し、その最初の正常性状態が初期化され、すべての状態およびプロパティが完全に Operations Manager コンソールに取り込まれるまで、最大で 6 時間かかることもあります。

回避策: デフォルトの監視間隔の値を無効にして、より短い間隔に設定してください。オーバーライドについて詳しくは、Operations Manager のオンライン・ヘルプを参照してください。

BladeCenter の正常性監視に関する問題

ここでは、BladeCenter の正常性監視に関連する問題について説明します。

BladeCenter アドバンスド・マネージメント・モジュール (AMM) のファームウェア・レベルが最新であることが重要です。AMM のファームウェア・レベルが古い場合は、必要な正常性状態のすべてを取得できないことがあります。AMM ファームウェアのアップグレードについては、http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/director/v5r2/index.jsp?topic=/bofm_1.00/btp0_bofm_t_upgrading_firmware.html を参照してください。

BladeCenter を正しく監視するには、BladeCenter SNMP 設定を正しく構成しておく必要があります。BladeCenter SNMP 設定の指定に関する「*Microsoft System Center Operations Manager 対応 Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack ユーザーズ・ガイド*」の指示に従って、設定を確認してください。

- **Operations Manager 2007 が、Windows Server 2008 で SNMP トラップ・データを受信できない**

Windows Server 2008 が稼働している Operations Manager 管理サーバーで、BladeCenter を正常に検出できる場合、Systems Center Operations Manager 2007 で使用可能な特定の修正パックがインストールされていなければ、BladeCenter からの SNMP トラップが Operations Manager に伝搬されない場合があります。

詳しくは、「[Microsoft サポート - Windows Server 2008 ベースのコンピューターまたは Windows Vista ベースのコンピューターを SNMP デバイス Web サイトのプロキシ・エージェントとして使用すると、System Center Operations Manager 2007 が SNMP トラップを受信できない](#)」を参照してください。

回避策: Windows Server 2008 の修正パックを、BladeCenter を管理するように指定されている Operations Manager 管理サーバーにインストールしてください。

- **Microsoft の Network Device Monitoring Library がインポートされている場合、その重大度に関係なく、クリティカルな「SNMP トラップ生成アラート」が BladeCenter イベントごとに報告される**

System Center Essentials 2007 用の Microsoft System Center Network Device Monitoring Library 管理パックは、受信する SNMP トラップのすべてをクリティカル・エラーと判断し、十分な関連データを SNMP トラップから取り込みません。この管理パックは BladeCenter を管理していないため、IT 管理者の混乱を招く可能性があります。

回避策: Network Device Monitoring Library 管理パックを Operations Manager から削除してください。

- **BladeCenter ストレージ・モジュールが監視されない**

BladeCenter ストレージ・モジュールは、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack では監視されません。

回避策: BladeCenter ストレージ・モジュールとそのディスク・ドライブを管理するには、RAID SAS スイッチ・モジュール (RSSM) を BladeCenter で使用してください。

- **基本管理モジュールを BladeCenter から取り外しても、Operations Manager にアラートが生成されない**

BladeCenter の基本管理モジュールは、BladeCenter から物理的に削除されている場合は Operations Manager に対してアラートを生成できません。その Operations Manager 管理サーバーへの元の接続が存在しないからです。

注：スタンバイ管理モジュールには、基本管理モジュールとは異なる IP アドレスが必要です。

回避策: 基本管理モジュールに加えてスタンバイ管理モジュールを監視するように Operations Manager を構成します。基本管理モジュールの取り外しに関するイベントを逃しても、BladeCenter の正常性監視全体を対象とすることができます。スタンバイ管理モジュールで管理する BladeCenter を追加するときに、そのスタンバイ管理モジュールを一時的にアクティブ管理モジュールにする必要があります。

- **BladeCenter マルチスロット・ワイド・ブレードが、シングルスロット・ワイドとして報告される**

BladeCenter の AMM がファームウェア・レベル BPET50C で動作している場合、BladeCenter マルチスロット・ワイド・ブレードはシングルスロット・ワイドとして報告されます。

回避策: AMM ファームウェアをレベル BPET54D 以降のバージョンにアップグレードするか、レベル BPET48N にダウングレードしてください。 http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/director/v5r2/index.jsp?topic=/bofm_1.00/btp0_bofm_t_upgrading_firmware.html を参照してください。

- BladeCenter メディア・モジュールで、メディア・トレイの部品番号およびシリアル番号として空の値が報告される

BladeCenter メディア・モジュールでは、メディア・トレイの部品番号およびシリアル番号として空の値が報告されます。

回避策: AMM ファームウェアを最新ファームウェア・レベルにアップグレードしてください。 http://pic.dhe.ibm.com/infocenter/director/v5r2/index.jsp?topic=/bofm_1.00/btp0_bofm_t_upgrading_firmware.html を参照してください。

- BladeCenterAMM が過負荷状態になっている場合、一部の SNMP トラップを送信できない場合がある
極端な状況が発生すると、BladeCenter の AMM に負荷がかかりすぎることがあります。この場合、Hardware Management Pack が Operations Manager に報告するために必要な SNMP トラップの一部を送信できません。

注: このような状況が発生することはまれです。BladeCenter シャーシにおけるコンポーネントすべてに致命的な障害が発生した場合など、極端な条件でのみ考えられます。

- BladeCenter メディア・モジュールのモジュール名が、一定期間「使用不可」と示される場合がある

BladeCenter メディア・モジュールの名前は、時間間隔ベースで収集されます。メディア・モジュールのアラート・ソースはモジュール名であるため、メディア・モジュールが取り付けられた時点から、次の期間にモジュール名が収集されるまでの間に発生するアラートについて、新しく取り付けられたそのモジュールのアラート・ソースは「Not available (使用不可)」として表示されることがあります。

回避策: 現時点では回避策はありません。

BMC の検出に関連する問題

ここでは、BMC の検出に関連する問題について説明します。

- Windows の BMC のディスカバリー・コンピューター・タスクの起動時にアプリケーション・エラーが発生する場合がある

Windows の「BMC Discover (BMC のディスカバリー)」コンピューター・タスクの起動時に、以下のアプリケーション・エラーが表示されることがあります。

Application: %IBM_DIR_VBS%\EndpointDiscovery.exe (アプリケーション:
%IBM_DIR_VBS%\EndpointDiscovery.exe) Error Message: The system cannot find the file specified. (エラー・メッセージ: 指定したファイルが見つかりません。)

回避策: 新しい環境変数 *IBM_DIR_VBS* を、Lenovo XClarity Integrator Hardware Management Pack のインストール・フォルダーとして指定された値とともに追加し、システムをリブートします。

- UAC が有効の場合、SCOM コンソールをローカル管理者として実行しないと、SCOM コンソールによる BMC の検出が失敗することがある

「Discover BMC (BMC の検出)」ボタンを使用して SCOM コンソールで IMM を検出する場合、ユーザーアクセス制御 (UAC) が有効になっていると、検出プロセスが失敗することがあります。

回避策: BMC を検出するには、先に「コントロール・パネル」で UAC を無効にするか、ローカル管理者として SCOM コンソールを実行します。

- 事前認証された BMC が、Lenovo XClarity Administrator により管理されると接続を失うことがある

Lenovo XClarity Integrator で以前にローカル BMC アカウントを使用してアクセスを要求した BMC の場合、Lenovo XClarity Administrator で BMC を管理すると Lenovo XClarity Integrator が BMC へのアクセスを失います。

Lenovo XClarity Administrator は、BMC を管理した後すべてのローカル BMC アカウントを無効にするため、Lenovo XClarity Integrator は以前に指定したローカル BMC アカウントを使用して BMC にアクセスすることができません。

回避策: Lenovo XClarity Administrator で構成したアカウントを使用して、Lenovo XClarity Integrator でもう一度 BMC アクセスを要求してください。

Lenovo XClarity Administrator の登録に関連する問題

これらのトピックでは、Lenovo XClarity Administrator の登録に関連する問題を扱います。

- **IPv6 アドレスを使用すると Lenovo XClarity Administrator が登録されない**

IPv6 アドレスを使用して Lenovo XClarity Administrator を登録すると、「Loading, Please wait ... (ロード中です。お待ちください...)」というメッセージが表示されますが、結果が戻りません。これは、Lenovo XClarity Integrator Unified Service が IPv6 アドレスから証明書チェーンを取得できなかったためです。この問題は、Lenovo XClarity Integrator の制限です。

回避策: 問題を解決するには、手動で Lenovo XClarity Administrator からの証明書をダウンロードし、Lenovo XClarity Integrator に証明書を追加します。「Manage trusted certificates (トラステッド証明書の管理)」 → 「Add (追加)」をクリックしてください。

- **Internet Explorer 10 を使用すると Lenovo XClarity Administrator 証明書をインポートしない**

Lenovo XClarity Integrator に手動で Lenovo XClarity Administrator 証明書 (PEM) ファイルをインポートすると、以下のメッセージが表示されて失敗する: Fail to upload certificate file (証明書ファイルのアップロードに失敗しました)これは、Internet Explorer 10 の既知の問題です。

回避策: この問題を回避するには、以下のいずれかの手順を実行してください。

- Internet Explorer をより新しいバージョンにアップグレードするか、別の Web ブラウザーを使用します。
- 証明書をインポートするときに、「Paste certificate in PEM format (PEM 形式の証明書を貼り付け)」を選択します。「Add from a file (PEM) (ファイル (PEM) から追加)」を使用して証明書を追加しないでください。

Operations Manager のヒント

ここでは、Operations Manager のヒントと情報を示します。

- **管理パックを削除した後、すぐに再インポートすると、その管理パックで検出されたオブジェクトが Operations Manager コンソールに表示されない場合がある**

管理パック・ファイルを再インポートするまでの時間が足りないと、Operations Manager に追加された管理対象システムが、Operations Manager コンソールに表示されないことがあります。

この問題について詳しくは、「Microsoft サポート - Discovery information is missing after you delete and then reimport a management pack in Microsoft System Center Operations Manager 2007」を参照してください。

この Microsoft の知識ベース記事の解決策セクションを参照してください。

- **管理対象サーバーが複数の管理グループで管理されている場合、そのサーバーの正常性状態がグループによって異なる場合がある**

複数の Operations Manager 管理グループにあるサーバーを管理するには、それらのサーバーが属している管理グループすべてに、同じバージョンの Hardware Management Pack を使用してください。そうしないと、そのサーバーの正常性状態またはアラート・レポートの一貫性が失われることがあります。

Hardware Management Pack で管理されている正常性状態の中には時間間隔ベースで更新されるものがあるため、管理グループによって、サーバーの正常性状態が異なる場合があります。

すべての管理グループで、管理パックを同じバージョンにしてください。

- **状態変更が最上位レベルにロールアップされるまで、長い時間がかかる**

Operations Manager コンソールでは、最上位レベル・オブジェクトの最終ロールアップ状態が反映されるまで、長い時間がかかることがあります。

F5 を押して手動で更新し、最新データを強制的に Operations Manager コンソールに表示するか、オブジェクトの最新の正常性状態を「Detail state (詳細状態)」ビューで調べてください。

- Operations Manager 状態ビューで左右にスクロールすると、データが消える場合がある

頻繁に左右にスクロールして、正常性状態ビューのすべての列を参照すると、正常性状態ビューのデータが消えてしまうことがあります。

F5 を押して手動で更新し、最新データを強制的に Operations Manager コンソールに表示してください。

- Operations Manager コンソール を使用して正常性状態をリセットすると、現在の正常性状態が反映されるまでに 2 分以上かかる

正常性サービスを使用して正常性状態をリセットした後、その状態が最上位の状態ビューにロールアップされ、現在の正常性状態が反映されるまで 2 分以上かかることがあります。

「F5」を使用して手動で更新し、最新データを強制的に Operations Manager コンソールに表示してください。

- 一部の Operations Manager オブジェクトの Path プロパティの値が空か、誤っている場合がある

「State list (状態リスト)」ビューに表示される一部の Operations Manager オブジェクトの Path プロパティの値が空か、誤っている場合があります。

– Lenovo System x および x86/x64 ブレード・サーバー

一部のオブジェクト・クラスの Path プロパティが空の場合があります。「Root Computers (ルート・コンピューター)」ビューにあるシステムすべての Path プロパティが空になっていますが、これらのオブジェクトの Path name プロパティは空ではありません。Hardware Management Pack は、作成するオブジェクトすべての Path プロパティを明示的に無効にするわけではありません。オブジェクトの Path プロパティは、空のクラスにそのオブジェクトが基づいていて、Hardware Management Pack がその値を明示的にオーバーライドしない場合に、空になることがあります。

– Lenovo BladeCenter シャーシと Lenovo Flex System シャーシ

BladeCenter シャーシの Path プロパティの値は、Operations Manager の「Monitoring (監視)」ページの「Details (詳細)」ビューでは正しくても、「State view (状態ビュー)」タブでは正しくない場合があります。

Path の値を「State list (状態リスト)」ビューで使用する前に、Operations Manager コンソールの「Details (詳細)」ビューで値を確認してください。

- 管理パックを削除して再インポートした後、Operations Manager 状態ビューのビューおよび列がデフォルト設定に戻らない

Operations Manager コンソールには、セッション間にわたって記憶される個人用ビューの持続的な設定が実装されています。Hardware Management Pack を削除して再インポートしても、このようなビューは記憶されています。

Microsoft System Center Operations Manager 2007 R2 を使用してビューを個人用に設定するときに、「Revert to default (既定値に戻す)」をクリックしてください。

- Operations Manager 2007 SP1 エージェントが、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 が稼働しているコンピューターにインストールされている場合、「処理時間が長いバックログ・イベント・エラー」として警告アラートが表示される

Operations Manager 2007 SP1 エージェントが、Windows 7 または Windows Server 2008 R2 が稼働しているコンピューターにインストールされている場合、EventID 26017 が記録されます。

この後、次の警告アラートが表示されます。Processing backlog events taking long time error

回避策は不要です。イベントを無視するか、Operations Manager 2007 R2 にアップグレードしてください。詳しくは、[Microsoft サポート – System Center Operations Manager 2007 の Windows Server 2008 R2 および Windows 7 Web ページ](#)を参照してください。

付録 A 注記

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、Lenovo の営業担当員にお尋ねください。

本書で Lenovo 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その Lenovo 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、Lenovo の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、他の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

Lenovo は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、いかなる特許出願においても実施権を許諾することを意味するものではありません。お問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

*Lenovo (United States), Inc.
8001 Development Drive
Morrisville, NC 27560
U.S.A.
Attention: Lenovo Director of Licensing*

LENOVO は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。Lenovo は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書で説明される製品は、誤動作により人的な傷害または死亡を招く可能性のある移植またはその他の生命維持アプリケーションで使用されることを意図していません。本書に記載される情報が、Lenovo 製品仕様または保証に影響を与える、またはこれらを変更することはありません。本書の内容は、Lenovo またはサード・パーティーの知的所有権のもとで明示または黙示のライセンスまたは損害補償として機能するものではありません。本書に記載されている情報はすべて特定の環境で得られたものであり、例として提示されるものです。他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。

Lenovo は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本書において Lenovo 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この Lenovo 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

商標

LENOVO、BLADECENTER、THINKSERVER、THINKSYSTEM、SYSTEM X、XCLARITY、および NEXTSCALE SYSTEM は Lenovo の商標です。

Internet Explorer、Microsoft、および Windows は、Microsoft グループの商標です。

IBM は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

他の商標はすべて、個々の所有者の財産です。© 2019 Lenovo.

重要事項

プロセッサの速度とは、マイクロプロセッサの内蔵クロックの速度を意味しますが、他の要因もアプリケーション・パフォーマンスに影響します。

主記憶装置、実記憶域と仮想記憶域、またはチャネル転送量を表す場合、KB は 1,024 バイト、MB は 1,048,576 バイト、GB は 1,073,741,824 バイトを意味します。

ハードディスク・ドライブの容量、または通信ボリュームを表すとき、MB は 1,000,000 バイトを意味し、GB は 1,000,000,000 バイトを意味します。ユーザーがアクセス可能な総容量は、オペレーティング環境によって異なります。

Lenovo は、他社製品に関して一切の保証責任を負いません。他社製品のサポートがある場合は、Lenovo ではなく第三者によって提供されます。

いくつかのソフトウェアは、その小売り版 (利用可能である場合) とは異なる場合があります、ユーザー・マニュアルまたはすべてのプログラム機能が含まれていない場合があります。

Lenovo